

海津市まちづくり委員会「第4回希少生物保護育成分科会」会議録

開催年月日 平成20年 3月10日(月)

開催場所 海津農村環境改善センター1階「視聴覚室」

分科会委員定数 13名

- 会議次第
1. 開会
 2. 副会長あいさつ
 3. 協議
 - (1) グループワークの手法及び班編制
 - (2) グループワーク
前回(平成19年12月6日)に「海津市の抱える問題・現状」として挙げられた課題についての解決策を検討する。
 - (3) その他
 - (4) 閉会

森 教 授	<p>前回のワークショップの結果を踏まえながら海津市における希少生物についての認識を新たにしていきたい。また、本日は本年度最後の分科会ということなので、次年度に向けて、どんなことをやっていったらよいのかということもご審議いただきたい。</p> <p>報告事項として、津屋地区のハリヨについて、県、海津市の協力を得て浚渫及びオオフサモの駆除を行った。オオフサモの駆除については分科会の皆さんの中からもご参加いただき、一部ではあるが実施することができた。</p> <p>特にご報告したいのは、浚渫及びオオフサモの駆除により、今年はハリヨの繁殖がずいぶん早く、且つ、ここ数年の中では非常に数が多く、かつてのハリヨの様相を示す兆候が見られた。もちろん一時と比べると少ないのですが、この場でご審議いただいたことが、こうした形で反映されたと理解しております。この分科会の活動が具体的な結果として表れた事例であると思います。</p> <p>・前回のワークショップの結果を受けた個々の感想の発表</p>
A 委 員	<p>水・山・田んぼの風景というのが子どもの頃の田舎の原風景として頭の中にあるのですが、それを今に置き換えると、現在でも水・山・田んぼの風景というものはあるが、子どもの頃の原風景と違ってきている。個々に見ると例えば、水の中の生き物が希少生物になってしまっている。</p> <p>私どもの分科会が発展していくことで、元の原風景に近いものに戻せるのではないか。これから育つ子どもたちが豊かな環境の中、成長していけるのではないかと思います。</p>
B 委 員	<p>一番下の子が小学3,4年生のときに、水・魚について、川には何がいるかを調べる学習がありました。その頃は保育園の近くで、カメが歩いているのを見かけ、カメもいるのだと思いました。また、実際に津屋川の水を浄化したものを飲んでみたくれといわれ、飲んだこともあります。</p> <p>上の子の時にはなかった学習内容で、学校が変わってきたこともあると思うが、環境に関して学ぶことが全国的に多くなったと思う。</p>
A 委 員	<p>30年近く前、この地域を訪れた時に、景色を見て、こんな所に住むといいなと思いました。そうしましたら、団地の整備が行われ、その営業につかまってしまって、以来住むようになりました。</p> <p>今でも、こんないいところはないと思います。景色はいいし、空気もいい。地域の方との関わりもいいですし、ここに住んで良かったと思います。田舎といっても、名古屋に近いですし、その割には開発さ</p>

C 委員	<p>れていない。そこがいいところだと思います。</p> <p>前回のワークショップでの意見をまとめる作業の中で、とてもよい意見が多いことに気づかされた。海津市にはそんないいところが多いので、次代に残していける仕組みづくりが出来たらと思う。</p>
D 委員	<p>小学校でホタルの育成に取り組んでおります。ビオトープを学校の敷地内に作って、ホタルを飛ばそうとPTAで取り組み初めて7～8年になり、6～7年目くらいからようやく飛ぶようになってきました。今では1年を通してその管理に携わっています。</p> <p>難しいのは水です。南濃の津屋川の水なんかはうらやましいなあと思います。海津地区の水は鉄分の多い「そぶ水」で、井戸を掘っても海津温泉のお湯で分かるように、水が黄色くなってしまいます。この処理に時間がかかりましたが、ようやく夏の初めに飛ぶようになってきました。ホタルの成虫から卵をとり、この時期まで世話をするということが子どもたちに体験させています。</p> <p>現在のビオトープには誰が放したのかシジミがおりますし、カダヤシ、トンボのヤゴ、小ブナなどもいます。昔の水辺の生き物を見ることが出来る環境が整ってきています。</p> <p>現在、見るものがなくなった植物に「ヒシ」があると思います。唯一、私が生息を確認していた池も産業廃棄物の処分地になってしまいました。今の子どもは「ヒシ」を知らないと思います。</p> <p>職業柄、健康には大変気をつけており、米を完全無農薬で栽培しています。無農薬ですので、ジャンボタニシのようなものが大変増えて苗を食べてしまうので困っています。去年は3回～4回植え直しました。皆さんから何か良いお知恵がいただけないかと思っています。</p>
森 教授	<p>津屋川の水がうらやましいというお話がありましたが、地域特性があり、山手も平地も合併によって得られた一つの財産という認識でよいのではないかと。</p> <p>平地においては、魚類ではナマズやコイの仲間、植物では先ほどのヒシ、オニバスなどが生息する。</p> <p>山手の方では小さな扇状地がたくさんあって、湧水がたくさんある。魚類ではハリヨやホトケドジョウ、植物では、北海道や、栃木県的那須でしか確認されていなかった種で、近年この地で生息が確認されたハイドジョウツナギがあります。</p> <p>山を起点とする湧水から揖斐川を中心とする周辺の流れが強くない水域の生物が生息しており、全体としては非常に多様な生物が生息しているといえる。</p>

	<p>一方、外来種も平地に生息するもの、山手に生息するもの、場所によって違いますが、いろいろなものが入り込んできている。それについても考えていかなければならない。</p> <p>農業のお話が出ましたので言及しますが、輪之内町において、農水省の事業として実施している土地改良の中で、ずいぶん環境配慮事業が取り込まれた基盤整備が行われています。海津市はひととおり終わっているが、下池西部土地改良区が新たな考えのもとでやられているようです。この分科会でどれだけ踏み込めるかというのは別の問題ですが、これからの農業政策なり、あり方について、また、希少生物を守るためにはこうした周辺地域の農業のやり方というのが生き物にとって一番効いてくる部分でありますので、そのあたりについてもご意見をいただけたらと思います。</p>
E 委員	<p>前回のワークショップをまとめたものを改めて見て感じたのは、誇れる点、良い点として挙げてあるものの多くが、誇れた点、良かった点という過去形になってしまっているということです。</p> <p>昔は井戸水もたくさんあっておいしかった。ため池も湧き水もたくさんあった。反面、道路網とかそういった部分では不便でもあった。</p> <p>現在は大変便利になったが、道路の整備により危険は増したし、特にため池についていえば、海津・平田では少なくなった。廃棄物の処理のために、埋め立てたところもある。湧水地も少なくなっている。便利な生活の引き替えに失ったものも多いように思われる。</p>
森 教授	<p>大垣市は「水都」だと大垣市長さんがおっしゃるので、私は「住んでいる人も、訪れる人もそんなイメージをこのまちに持っておらず、既に過去のものになっている」と指摘したことがある。その分、豊かさを享受してきたわけだが、豊かさというものについて再考する時に来ているのではないか。</p> <p>3年程前に文科省が自然に親しんだ子とそうでない子を対象に実施した情操教育のアンケート調査があるのですが、それによると、川に行ったことのある・なしで子どもの情操上（キレル・キレない）大きく影響があることが科学上証明されています。</p> <p>子ども時代に自然に親しむことをやったかやらなかったかで後々の情操教育にずいぶん影響していることがいわれているといった点からも、きれいな場所を作る（まちづくり）というだけでなく、人づくりという側面にもこの活動が多少なりとも関与することが出来たらいいなと思います。</p>
F 委員	<p>皆さんの話を聞きながら、何が大事なのかを考えていました。小</p>

<p>G 委 員</p>	<p>学唱歌に「ふるさと」「春がきた」というのがあります。歌詞にもありますが、子どもたちが大きくなって街を出て行く時、ふるさとを振り返って、誇れるものというのをぜひ残してあげるということを特に考えなければいけないなと思う。</p> <p>心ない人がゴミを捨てたり、外来生物が増えて、日本固有の生物が減り、生物界の様相が変わっていつの間にかになっている現状をどうすればいいのかというのが一つの大きな問題ではないかと考えている。</p> <p>北部地区の3反くらいの池で、池の水を抜き干して、外来のブルーギルやブラックバスなどを退治しました。これには各大学で研究している学生にも参加してもらった。</p> <p>特筆すべきは農業団体（営農団体）にも参加いただいて、「農地・水・環境保全向上対策事業」という補助金を使って事業を実施したということです。この補助金の目的の一つに生物の多様性の追求という事が謳われていたことから実現しました。将来、何年かかるか分かりませんが、どのように環境が変化していくのかということも検証していきたい。</p> <p>また、下池西部土地改良事業の中で、生物の多様性を追求しようということで、ビオトープ造成事業を検討している。私は農業者ではありませんが、事業に参加して、その方策について検討しています。</p> <p>ビオトープ計画は、土地改良事業によってできた農地の切れ端を集めてできた土地があわせて900㎡くらいあるのですが、現在、そのうちの1/3にあたる300㎡を使ってビオトープを作ろうと具体的に動いています。</p> <p>地下80メートルまで掘り下げた井戸から、20程度の水がポンプを使わずに湧き出しています。構想では、この地域で絶滅してしまったと言われている「ウシモツゴ」「イタセンパラ」を放流したいと思っています。</p> <p>また、残りの600㎡についても、このビオトープとは目的を異にしたものを整備したいと考えています。</p> <p>私は農業をされている方に時々「田んぼでカエルの合唱を聴きたい」ということを申し上げている。そのためにどうしたらよいかということとは私も勉強していかなければならないと思うが、現在の田んぼにはカエル一匹いなくて淋しい限りだと思う。</p> <p>昨年4月から海津に来たので、まだ1年に届くかどうかというところですが、海津に来る前は愛知県の三河地方、西尾市にいました。私の目から見た海津市は、西尾市に比べると、自然がよく残っているなと思います。</p> <p>20年以上前の西尾市は田んぼの周りにポツンポツンと民家が存在</p>
--------------	---

<p>森 教 授</p>	<p>しているような所でした。圃場も整備されておらず、道も未舗装のままでした。久しぶりに小学校の周りを歩いてみたのですが、すべて宅地化され、別の街になっていました。</p> <p>三河はトヨタを頂点として系列会社がたくさんあり、人口も増え発展している。しかしそのことでどこにでもある地方都市になってしまった。</p> <p>海津市では遺跡が非常によい状態で残っている。現在の羽沢貝塚から養老の山々を眺めた景色はそのまま、5000～6000年前の人も見えていたと思う。農地になっているだけで、開発が及んでいないことに魅力を感じる。こうしたものは開発との両天秤であるが、壊してしまえば元には戻らない。開発行為は風景を代償に払っている。どうやって次代に引き継いでいくか。我々には未来に残す義務がある。</p> <p>貝塚を含む景色の保護を考えるとという視点の違ったご意見をいただきました。貝塚と水とは切っても切れない関係にあったと言えます。</p> <p>生物を守るというのは、その生物が住む環境も守るということに繋がります。その生物さえ保護すればいいというのであれば、極端に言えば、水族館で守ればいい。もっと言えば、植物であれば種子、動物であれば、精子、卵子を凍結保存すればいいということになってしまおう。実際に我々はその技術を既に持っています。</p> <p>しかし、そうではなく、それらが生息する環境をも守っていかうとするのであれば、地域の人々との多面的な活動が必要になってきます。</p> <p>先ほども申し上げましたが、合併によって地域の財産が増えたといえると思います。海津・平田の方にとっては、貝塚やハリヨが「オラが街」の財産になりました。逆に南濃の方にとっては、ナマズに代表される川魚の食文化などが新たに加わった財産です。そうした財産をみんなで守っていくという発想が必要です。</p> <p>開発との両天秤というお話がありましたが、私もいくつかの県で文化財保護審議会の委員をしておりますので、開発担当部署との調整が大変であるということをも身をもって体験しております。しかし、郷土の財産（景色を含む）を守るということも住民サービスであるという認識も必要なのではないか。もちろん生命財産を守るという点が一番大事であるから、これらを車の両輪と捉え、バランスをとることができれば一番よいと思う。</p> <p>それでは、今、皆さんからいただいたご意見を含め、海津市の抱える現在の問題点だけでなく、良かった点・良い点も活かしながら、ワークショップを行っていただきたいと思います。</p>
--------------	--

	<p>< 森教授の進行によるワークショップ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの手法等の説明 ・グループでの検討 ・森教授による考察 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の分科会で海津市が抱える課題についてさまざまな解決策等の提案がされた。 ・大江小学校でのウシモツゴ復活作戦や、津屋川での浚渫や外来種であるオオフサモの除去活動、下池西部土地改良区のピオトープ整備計画、海西・大江両小学校でのホタルの育成活動など、市内ではさまざまな活動が現在進行形で進んでいる。 ・今日の提案や、現在の活動の中から、来年度は具体的に分科会として何ができるのか、また、市や市長に対して、希少生物の保護育成のため、なにを（やりたい・やってほしい）という提案をするべく、内容を詰めていっていただきたい。 <p>< ワークショップ終了 > <u>ワークショップの成果物は別紙参照</u></p>
事務局	<p>< 事務局説明 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回若しくは次々回の分科会において、市内の希少生物生息地の現状や現在行われている取り組みについて、分科会の共通認識とするため、現地視察の実施を行いたいと考えております。 <p>その他、皆様からご意見等はありませんか。</p>
森教授	ハリヨの映画の完成報告
事務局	第4回団塊の世代講座「水辺環境レスキュー隊」PR
副会長	<p>それでは、大変長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして海津市まちづくり委員会第4回希少生物保護育成分科会を終了いたします。</p>